

# 介護職員による喀痰吸引等のテキスト等の作成に係る調査研究 事業要旨

(厚生労働省 平成30年度障害者総合福祉推進事業)

## I. 本事業の目的

第3号研修のテキストおよび指導者マニュアルについて、制度開始時に作成してから5年以上が経過したため、課題の把握、改訂すべきポイントの整理を行い、改訂作業を実施した。

【改訂する対象】第3号研修テキスト、第3号研修指導者マニュアル、動画

## II. 本事業の実施内容

### 1. 既存調査の分析によるテキスト・指導者マニュアルの課題等の整理

平成28年度喀痰吸引等研修（第3号研修）実態調査の回答票より、テキストおよび指導者マニュアルの課題等に関する回答を抽出して整理した。

### 2. アンケート調査によるテキスト・指導者マニュアルの課題等の把握

- 調査の目的：テキスト・指導者マニュアル・DVDの活用状況、課題、見直しが必要な箇所・内容等の把握
- 調査対象：都道府県（47件）、研修実施機関（354件）
- 調査方法：郵送による発送、回収
- 調査実施時期：2018年8月～10月
- 回収率：都道府県91.5%、研修実施機関54.2%

### 3. 編纂委員会による改訂作業

編纂委員会を設置し、上記の調査結果を踏まえ、テキスト、指導者マニュアルの改訂を行った。一部、各委員に改訂版原稿の原案執筆をご担当いただいた。

## テキスト構成の新旧比較表

現行テキスト	改訂版テキスト
<b>第1章 重度障害児・者等の地域生活等に関する講義</b>  1. 障害者自立支援法と関係法規 2. 利用可能な制度 3. 重度障害児・者等の地域生活	<b>第1章 重度障害児・者等の地域生活等に関する講義</b>  <b>0. 喀痰吸引等研修の概要</b> 1. 障害保健福祉制度の概要 2. 喀痰吸引等制度の成り立ち 3. 重度障害児・者についての理解 4. 喀痰吸引等制度の運用
<b>第2章 重度障害児・者等の障害及び支援に関する講義 緊急時の対応及び危険防止に関する講義</b>  1. 呼吸について 2. 喀痰の吸引 3. 健康状態の把握 4. 経管栄養	<b>第2章 重度障害児・者等の障害及び支援に関する講義 緊急時の対応及び危険防止に関する講義</b>  <b>1. 健康状態の把握</b> <b>2. 感染予防</b> 3. 呼吸の仕組みと呼吸障害 4. 喀痰の吸引 5. 経管栄養
<b>第3章 喀痰吸引等に関する演習</b>	<b>第3章 喀痰吸引等に関する演習</b>

※各章の冒頭に「学習のポイント」を追加  
※第2章4. 5. の演習の手順、第3章は、評価票と整合するよう改訂  
※指導者マニュアルは、第3章に「指導のポイント」を追記したもの  
※改訂版テキストのスライド画像と説明文から構成される動画を制作

## III. テキスト・指導者マニュアルの改訂内容

### アンケート調査等から把握された主な課題

### 編纂委員会での主な意見

### 改訂の基本方針・各章の改訂ポイント

<b>第1章</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・制度情報の更新</li><li>・研修修了後の流れや留意点の追記</li><li>・喀痰吸引等制度の経緯や第1・2号との違いの説明</li><li>・制度の理念の説明</li><li>・医療的ケア児の説明</li><li>・具体的な業務内容の追記</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・制度情報の更新は必要だが、情報量が多いため絞る必要がある</li><li>・「なぜ介護職員等が喀痰吸引等を実施するのか?」、第3号研修の意味や第1・2号研修との違い、OJTがメインであることを伝える必要がある</li><li>・研修修了から業務として喀痰吸引等が実施できるまでの流れの説明が必要</li><li>・各書類の準備・やりとりや安全委員会の設置など、省令で定められている取組を分かりやすく解説してはどうか</li><li>・多職種連携の必要性やチームで関わることが具体的にどういうことなのか伝えられるとよい</li></ul>	<b>テキスト改訂の基本方針</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・第3号の特徴をふまえ、基本研修では<b>基本原則</b>に従った対応、実地研修では<b>個別性への対応</b>を修得することを伝達</li><li>・演習の手順は、<b>安全性等の面から正しい手順に修正</b>しつつ、あくまで基本的な手順の一例であり、<b>実地研修では対象者に応じた手順を修得</b>する必要があることを明記</li><li>・第1・2号との整合については、すべてを統一することは想定せず、第3号の対象者の実態等をふまえ、必要箇所について整合を図る</li></ul>
<b>第2章</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・人工呼吸器に関する説明の充実</li><li>・人工呼吸器の機種など、機器・物品の更新</li><li>・演習の手順の修正</li><li>・緊急時対応の記載の充実</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1・2号研修テキストとの整合を図る必要がある</li><li>・「健康状態の把握」を冒頭に移動してはどうか</li><li>・感染予防知識は、喀痰吸引等全般に必要なため、独立させてはどうか</li><li>・呼吸障害に対して、吸引だけでなく基本的な対応方法の知識が必要</li><li>・在宅での人工呼吸器療法が増加している状況を踏まえ、<b>人工呼吸器療法に関する具体的な説明</b>が必要、また、<b>機種が古いので更新</b>が必要</li><li>・吸引しなくてもよい状況をつくる取組を医療職と連携して実践した上で、<b>必要最小限の医療的な対応として吸引を行う</b>ことを追記してはどうか</li><li>・演習の手順は、流れ上、辻褄の合わない箇所は修正した方がよい</li></ul>	<b>第1章の改訂ポイント</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・<b>最新の制度情報</b>を追記し、<b>制度の基本理念</b>を丁寧に説明</li><li>・特定の者を対象とした喀痰吸引等の基本的な考え、実地研修や業務での<b>医療職との連携の重要性</b>を解説</li><li>・<b>事業者</b>に求められる<b>体制づくり（安全委員会など）</b>を解説</li><li>・<b>多職種連携</b>の具体的な場面や各職種の役割を説明</li><li>・<b>業務計画書等の記載例、意思決定支援ガイドライン</b>を参考資料に掲載</li></ul>
<b>第3章</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・介護職員が行える範囲に即した手順の記載</li><li>・実態に即した手順の記載</li><li>・使用している機器に応じた手順の記載</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・準備、ヒヤリ・ハットを含めた報告、片付けについては、第1・2号と整合をとってもよいのではないかと。</li><li>・<b>演習の内容と評価項目票で一致しない箇所</b>がある。</li><li>・実施後記入するのは評価票ではなく、実施記録ではないかと。</li></ul>	<b>第2・3章の改訂ポイント</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・<b>健康状態の把握⇒感染予防⇒呼吸⇒喀痰吸引⇒経管栄養</b>に構成を変更</li><li>・感染予防の内容を基本知識を中心に充実</li><li>・呼吸障害に関する詳細な解説を追加（姿勢、気道が狭くなる原因、気管切開を受けている人への対応の注意点など）</li><li>・人工呼吸器の機種など、<b>機器・物品情報の更新</b></li><li>・吸引しなくてもよい状況をつくる取組を説明し、その上で<b>必要最小限の対応として喀痰吸引を行う</b>ことを説明</li><li>・対象者の状況にあった演習ができるよう、<b>単回使用、乾燥法、薬液浸漬法すべての演習の手順</b>を記載</li></ul>
<b>指導者マニュアル</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい医療機器に関する追記</li><li>・詳細な指導の要点や注意点の記載</li><li>・介護職員等を指導する際のポイントや連携のあり方</li><li>・個別性の高いマニュアル例の提示</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第3章の改訂内容をふまえて検討</li></ul>	